

〔薬学雑誌, 101, 700 (1981)〕

**大棗の成分研究 (第4報\*) 大棗エタノールエキスより抗アレルギー成分,  
Ethyl  $\alpha$ -D-Fructofuranoside の単離**

八木 晟\*\*, 江田昭英, 稲垣直樹, 原口 康\*\*\*, 野田寛治\*\*\*,  
岡村信幸\*\*\*, 西岡五夫\*\*

**Studies on the Constituents of Zizyphi Fructus. IV. Isolation of  
an Anti-allergic Component, Ethyl  $\alpha$ -D-Fructofuranoside from  
EtOH extract of Zizyphi Fructus**

AKIRA YAGI\*\*, AKIHIDE KODA, NAOKI INAGAKI, YASUSHI HARAGUCHI\*\*\*,  
KANJI NODA\*\*\*, NOBUYUKI OKAMURA\*\*\*, ITSUO NISHIOKA\*\*

大棗エタノールエキスが, ラットの reagenic antibody 産生を抑制し, non-reagenic antibody の産生を抑制しないことを見出し, その活性成分が ethyl  $\alpha$ -D-fructofuranoside であることを確認した。また, 本物質がエタノール熱浸により二次的に生成したものであることを証明した。近年, ethyl D-glucofuranoside 誘導体にセロトニンやヒスタミンに対する拮抗作用や抗アレルギー作用が見い出されている。本研究において大棗エタノールエキスから抗アレルギー成分として ethyl  $\alpha$ -D-fructofuranoside を単離したことは, ethyl D-glucofuranoside 誘導体との構造上および薬理作用上の類似性から極めて興味ある知見である。

\* 第3報: Chem. Pharm. Bull., 29, 676 (1981) \*\* 九州大学薬学部 \*\*\*久光製薬研究所

〔臨床免疫, 13, 499 (1981)〕

**蚊アレルギー2例の免疫学的検討**

宇理須厚雄\*, 佐藤千寿子\*\*, 岡田純一\*, 松岡 宏\*, 松岡道子\*\*\*,  
鳥居新平\*, 江田昭英

**Immunological studies of the two patients with mosquito allergy**

ATSUO URISU\*, CHIZUKO SATO\*\*, JUNICHI OKADA\*, HIROSHI  
MATSUOKA\*, MICHIKO MATSUOKA\*\*\*, SHINPEI TORII\*, AKIHIDE KODA

蚊アレルギーの7歳男児例と12歳女児例とを経験し, 免疫学的検索を行なった。患児血清中には, 蚊抗原エキスに対する特異的 IgE 抗体と, Parish の報告した STS 抗体に相当すると思われる抗体が存在していた。蚊アレルギーの病態生理にはアルサス型反応が関与しており, 先の2種類の抗体によって仲介されるヒスタミンなどの化学伝達物質遊離によって, アルサス型反応が増強されている可能性が推測された。

\* 名古屋大学医学部小児科学教室 \*\* 社会保険中京病院小児科 \*\*\* 国立名古屋病院小児科